

平成 31（2019）年度の色柄トレイ・発泡スチロールの処理方法の変更について

1. 内容

現在、分別収集している色柄トレイ・発泡スチロールについて、平成 31（2019）年 4 月から分別収集後、三の倉センターで焼却し、発生する熱量を発電に利用する方法（サーマルリサイクル）に変更するもの。

2. 経緯・理由

- (1) 平成 12 年 4 月「23 分別」による収集開始。収集品目の一つとして開始当初から「色柄トレイ・発泡スチロール」を設定していたが、導入当時から逆有償（金を支払って引き取ってもらう）であった。
- (2) 回収後の色柄トレイ・発泡スチロールは、再生用原料として主に中国に輸出していた。しかし、中国の廃プラスチック輸入禁止により、輸出先をベトナムに変更したため、輸送コスト増などにより、平成 31（2019）年度の引取単価が大幅に上昇する見込みとなった。（下記【費用と回収量の推移】参照）
- (3) 三の倉センターの焼却炉はプラスチック類を焼却可能で、熱回収できる能力がある。また、年間 20 トン程度の色柄トレイ・発泡スチロールの焼却であれば、焼却炉への負担はない。現在、事業系ごみの発泡スチロール等は焼却処分している。
決算委員会において、プラスチック類は焼却して熱回収をしたらどうかという意見あり。
- (4) ハイブリッドコークス等焼却燃料単価が急騰しているため、燃料の補助材とし、焼却時の熱量を利用して発電量を向上させる。

【費用と回収量の推移】

	1 kg 当たり税込単価 (円)	年間回収量 (kg)	委託料 (円)
平成 23 年度	115.5	25,160	2,893,824
平成 24 年度	4～7 月 89.25	3,980	397,893
	8～3 月 225.75	18,880	4,262,160
平成 25 年度	82.95	21,990	1,824,885
平成 26 年度	81	23,660	1,917,070
平成 27 年度	54	16,620	897,786
平成 28 年度	81	21,750	1,761,750
平成 29 年度	81	17,670	1,431,270
平成 30 年度	81	※1 19,120	1,548,720
平成 31 (2019) 年度	A 社 216	※2 20,340	4,393,440
	B 社 162	※2 20,340	3,295,080

※1 上半期の実績からの見込量

※2 平成 25 年度～29 年度の平均回収量

【三の倉センター焼却燃料用ハイブリッドコークス単価・使用量及び焼却量】

	H25	H26	H27	H28	H29	H30.4 月
単価 (単位 円/t)	32,239	31,838	27,955	24,437	36,546	48,182
年間使用量 (t)	4,088	4,314	4,433	4,407	4,351	
年間焼却量 (t)	41,268	42,915	44,344	44,283	45,031	

【効果の試算】

- (1) 1トン搬入した場合、1,600Kwhの発電増の可能性有
- (2) 平均売電価格 13円/1Kwh
13円×1,600Kwh×20トン=約420,000円 売電による収入増が見込まれる。

3. 近隣他市の状況

	色柄トレイ	発泡スチロール
岐阜市	燃えるごみ	資源
土岐市	燃えるごみ	燃えるごみ
瑞浪市	燃えるごみ	燃えるごみ
恵那市	燃えるごみ	燃えるごみ
中津川市	燃えるごみ	資源

4. 今後の方向性とスケジュール

平成31(2019)年度中は、分別収集後の焼却処分を行い、引取単価の推移、収集量変化、世界情勢を見ながら、現行の23分別から22分別へ変更するかどうかを平成31(2019)年度中に判断する。

平成31(2019)年2月	区長会において周知
平成31(2019)年3月	広報、ホームページにおいて周知
平成31(2019)年4月～32(2020)年3月	現行通り分別収集後、緊急措置として焼却処分

【参考】

ペットボトル及び白色トレイの処理方法について

日本容器包装リサイクル協会(以下「容リ協」という。)との契約により、容リ協の再商品化事業者へ引き渡し。

再商品化される量に応じ、容リ協から多治見市へ拠出金が支払われる。

【平成29年度実績】

	引き渡し量 (kg/年間)	再商品化業務委託料 (円/年間)	合理化拠出金 (円/年間)
ペットボトル	90,620	0	4,639,456
白色トレイ	9,780	4,585	197,910